

活 動 報 告

平成19年度 活動報告

1. 教育実践総合センターの概要

(1) センター設立の趣旨

21世紀を迎え、国際化・情報化の進展、科学技術の発達、少子化・高齢化の進行、環境問題等、現代社会は複雑化・深刻化してきており、未来を生きる子どもたちの教育についても混迷を深めてきている。学校教育も大改革の時代を迎え、新しい教育課程の創造、総合的学習、学力問題、特別支援教育など新しい課題に直面している。子どもを取り巻く状況もいじめや不登校の益々の深刻化、低学年での学級崩壊や教師に対する暴力、アスペレーション・クライシス等々の早急に対応しなければならない課題を突きつけてきている。

本学教育実践総合センターは、こうした学校教育を取り巻く諸問題に現実的に対処すべく、旧教育工学センターと旧教科教育センター（学内括置による）とを発展的に改組して、平成9年度に設立された。

(2) センターの目的

センターは、「教育実践及び教育臨床にかかわる理論的、実践的並びに実際的な研究を行うとともに、学校教育諸問題に適切に対処することのできる教員並びに教育実践の指導者の養成に寄与すること（愛知教育大学教育実践総合センター規程第2条）」を目的としている。

(3) センターの構成

このセンターは2部門3分野（教育実践基礎研究部門—教科教育研究分野、教育臨床研究部門—発達支援基礎研究分野・教育臨床分野）からなり、教授1、講師1、客員准教授2（愛知県教育委員会並びに名古屋市教育委員会から各1）の教員組織と事務職員1、事務補佐員1の事務組織および学内外の研究員および研究協力員とによって運営されている。

平成19年度の各分野の研究員、研究協力員の実数は下表の通りである。

| 部 門 | 分 野 | 研 究 員 | | | 研究協力員 |
|----------------|------------|-------|-------|----|-------|
| | | 学内 | 附属学校園 | 合計 | |
| 教育実践基礎 研究部門 | 教科教育研究分野 | 51 | 2 | 53 | 47 |
| 教育臨床 研究部門 | 発達支援基礎研究分野 | 13 | 0 | 13 | 9 |
| | 教育臨床分野 | 10 | 0 | 10 | 46 |

2. 研究活動

センターでは先に述べた、2名の専任教員と2名の客員准教授及び多数の研究員・研究協力員が教育研究に従事している。今年度は、主に次のような活動を行った。

◎教育実践基礎研究部門

<教科教育研究分野>

(1) 運営

本年度は専任教員が転出し不補充であるため、2007年4月11日にメンバーが集まり、メンバーが下記のように任務を分担してこの分野を運営していくことにした。なお、代表は船尾日出志とした。

- ①人材データベース …………… 宮川秀俊
- ②スコープ編集・発行 …………… 中野真志
- ③大学—附属学校連携 …………… 船尾日出志
- ④学内外を集めた研究会 ……… 森 勇示
- ⑤センター紀要の編集 …………… 山田篤史
- ⑥教科書収集・整理 …………… 山田 綾

(2) 人材データベース

平成20年度版もまた学校側から見るときに記載内容がわかりやすいように工夫して発行する。

(3) スコープ編集・発行

学習指導要領の改定にかかわって今年度は「教科における言語能力もしくは言語活動」を特集テーマとした。

(4) 大学—附属学校連携

愛知教育大学・附属学校共同研究会の参加者数は、大学教員の延べ数は131人、実数103人、附属学校教員の延べ数は260人、実数194人、両者合わせると延べ391人、実数では297人である。

代表者会は2007年6月22日に開催された。また全体研究会は、2007年8月8日に、大学の安全教育シンポジウムの後の午後3時から開催された。なお、各分科会毎の研究会は随時開催された。

報告書は、昨年度（平成19年度）から電子媒体で発行している。

(5) 研究会

下記のように「犬山の教育」の視察を行った。

訪問日 2007年11月22日

訪問先 犬山東小学校

訪問者 川上昭吾、森勇示、後藤ひとみ、佐々木徹郎、石田博幸、遠西昭壽の教員6名および院生9名

内容 授業の参観（複数の教室を見て回った） 校長先生、犬山市教育委員会の説明

報告 少人数授業と教員が主体的に教材開発に取り組むことが印象に残った。唯一、全国学力テストを行わず、その気概を実践に反映させようとする意気込みを感じた。

(6) センター紀要

教育実践総合センター紀要（第11号）を編集発行した。

(7) 教科書収集整理

本年度も引き続き教科書の収集と整理を行った。

◎教育臨床研究部門

<発達支援基礎研究分野>

分野研究会

第1回研究会／6月20日（水） 16：00～

1) 平成18年度活動報告および会計報告

2) 平成19年度活動計画

第2回研究会／1月16日（水） 17：00～

テーマ：音楽をまとう若者

講師：小泉恭子氏（愛知教育大学）

第3回研究会／2月6日（水） 14：00～

テーマ：里親とは何か～家族する時代の社会学

講師：和泉広恵氏（流通経済大学）

「SOBA」による学習会（毎週火曜日：Eメールなどの返信案作成、いじめ・不登校などについての学習）

しえんサロン（発達支援学習会）

第1回／7月17日（火） 16：40～

「聴いてみませんか、ティーンズの悩みごと～あなたにもできる・中高生へのサポート」

（講師：NPO法人 子育て子育てNPOスコップ 杉浦登喜子氏ほか）

第2回／11月13日（火） 16：40～

「児童養護施設と子どもたち」（講師：児童養護施設 中央有鄰学園 立花篤志氏）

第3回／1月16日（水） 14：00～

「体験！CAPワークショップ～子どもに安心・自信・自由を伝えるプログラム」

（講師：あいちCAP 今西洋子氏ほか）

<教育臨床分野>

教師等との共同研究会

愛知学校教育相談事例研究会（毎月第2金曜夜間、夏期・冬期合宿各1）

愛知学校カウンセリング研修会（毎月第1、3金曜夜間）関連文献の精読および事例検討

愛知教育大学心理療法研究会（毎月第4金曜夜間）

安城市子ども理解のための事例研究会（毎月第1火曜夜間）

附属学校園との共同研究会（いじめ・不登校・学級崩壊等プロジェクト）

第1回研究会（17名参加）／6月28日（水） 14：00～16：30

【事例発表】アスペルガーと診断された小4男児A男の遊戯療法

- 第2回研究会 (18名参加) / 7月25日 (水) 14:00~16:30
 [事例発表] ミニチュアハウスの修理を欠かさない3歳男児との遊戯療法過程
- 第3回研究会 (12名参加) / 9月26日 (水) 14:00~16:30
 [事例発表] 不登校を主訴とした中2男子との遊戯療法過程
- 第4回研究会 (17名参加) / 10月24日 (水) 14:00~16:30
 [事例発表] 母親と離れたくないと訴え登校をしぶる小4女児の遊戯治療過程
- 第5回研究会 (21名参加) / 11月28日 (水) 14:00~16:30
 [事例発表] ADHDの疑いのある小2男児の遊戯療法過程
- 第6回研究会 (19名参加) / 12月19日 (木) 14:00~16:30
 [事例発表] 自閉症と診断された小5男児の遊戯療法過程
- 第7回研究会 (15名参加) / 1月23日 (水) 14:00~16:30
 [事例発表] 場面緘黙を主訴とする不登校中2女子の遊戯療法過程

3. センター教員の学部・大学院教育への参与状況

| 教官名 | 担当教科 | 必・選 | 単位 | 学年 | 人数 | 備考 |
|-------|---------------------|-----|----|----|----|-----------|
| 生島 博之 | こころとからだ セミナー | 選 | 2 | 3 | 40 | 学部(2人で分担) |
| 生島 博之 | 臨床心理実習Ⅰ | 必 | 1 | M | 12 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 臨床心理実習Ⅱ | 必 | 1 | M | 12 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 臨床心理面接Ⅰ (昼) | 必 | 2 | M | 7 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 臨床心理面接Ⅰ (夜) | 必 | 2 | M | 10 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 臨床心理面接Ⅰ (夜)サテライト | 必 | 2 | M | 1 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 遊戯療法特論 | 選 | 2 | M | 18 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 修論指導 (特別研究Ⅰ) | 必 | 2 | M1 | 11 | 学校教育臨床専攻 |
| 生島 博之 | 修論指導 (特別研究Ⅱ) | 必 | 2 | M2 | 11 | 学校教育臨床専攻 |

なお、学校教育臨床専攻では、当センター心理教育相談室での臨床実践(教員が院生とペアで相談ケースを担当すること)を、授業(講義、演習、実習)と同程度に必修としており、1年間(平成18年11月~平成19年12月)に336時間の心理教育相談(カウンセリング)を実施した。そして、これらのケースに関する指導院生などへの個人スーパービジョンを20時間実施した。それ故、計356時間をコマ数(1.5時間×15回)に換算すると15.8コマを担当したことになり、学部および大学院の授業をプラスすると24.3コマ担当したことになる。

| 教官名 | 担当教科 | 必・選 | 単位 | 学年 | 人数 | 備考 |
|------|------------------|-----|----|----|-----|--------|
| 川北 稔 | 地域づくりと 生涯学習計画 | 選 | 2 | 3 | 111 | 学部教育科目 |
| 川北 稔 | 平和と人権 セミナー | 選 | 2 | 3 | 18 | 学部教育科目 |
| 川北 稔 | 平和と人権 展開2 | 選 | 2 | 2 | 18 | 学部教育科目 |
| 川北 稔 | 平和と人権入門 | 選 | 2 | 1 | 5 | 学部教育科目 |

4. 教育事業

センターでは、本年度に次の教育事業を行った。

①教師等のための公開講座の実施

【学校教育臨床―事例研究A―】

(19.6.30.~20.3.1. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者12名)

【箱庭づくり体験】(19.6.24. 5時間、主任講師：生島博之、参加者30名)

【学校教育臨床―事例研究B―】

(19.6.23.~20.3.15. 全9回27時間、主任講師：生島博之、参加者14名)

【教育臨床セミナー】(19.8.9.~19.8.10. 2日集中11時間、主任講師：生島博之、参加者27名)

【聞いて学ぶ、動いて学ぶ、総合的学習の理論と実践】(全3回9時間、参加者10名)

②附属岡崎中学校及び附属名古屋中学校でのスクールカウンセリングの実施

(18.12.5.~19.11.27. 全32回153時間)

③教育臨床分野による教育事業

実践力の優れた臨床心理士を養成するために、学校教育臨床専攻の臨床心理士教員および客員教員との合同で、臨床心理学コースの大学院生の臨床実習として、ケースカンファレンスを実施してきている。さらに、修了生へのアフターケアとして心理療法研究会を行い、グループ・スーパービジョンもおこなっている。

一方、学部生に対しては、将来に教員をめざすもの等を対象として、不登校児童・生徒へのボランティア(訪問支援・適応指導教室など)に関心があり、学外活動支援実習室に登録した学生に対して、学習会を開いて研修を行い、時期をみて実習希望先に派遣している。(なお、下記の表は平成19年度に参加した学生の数を示している)

| | 修了生 | M2 | M1 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 | 合計 |
|-------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| ケースカンファレンス① | 1 | 20 | 16 | | | | | 37 |
| ケースカンファレンス② | 2 | | 13 | | | | | 15 |
| 心理療法研究会 | 15 | | | | | | | 15 |
| 学外活動支援実習室 | | | | 7 | 5 | 3 | 1 | 16 |

- 1) ケースカンファレンス①(センター協力員・院生スタッフ対象、39名)15回 教員4名
- 2) ケースカンファレンス②(いじめ・不登校・学級崩壊プロジェクトを兼ねる)7回 教員3名 院生10名
内地留学生4名 附属中・高校教員2名
- 3) 愛知教育大学心理療法研究会 毎月1回 臨床心理士(愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻臨床心理学コース修了生ほか)10名
- 4) 学外活動支援実習室学習会 隔週火曜日(4限)・木曜(2限) 将来に教員をめざす学生ほか10名
- 5) 愛知学校教育相談事例研究会 毎月1回(含合宿研修=夏期・冬期)小中高教員等30名
- 6) 愛知学校カウンセリング研修会 毎月2回 小中高教員等10名

5. 相談事業

本年度に、教育実践総合センターでは、以下の相談活動を行った。

1) 電子メール、FAXによるいじめ相談

「SOBA」(Symposium of Bullying in Aichi: 学生を主体とした「いじめ」に関するボランティア活動)による電子メール・FAXを利用した相談活動(4月から12月までに23件の受信内容に対する返信)

| 事項 | 対象 | 件数 | 時間 | 担当者等 |
|-------------------------|----|----|----|---------------|
| 電子メール、FAXによるいじめ相談「SOBA」 | 一般 | 23 | 随時 | 川北 稔、SOBAメンバー |

2) 面接教育相談

センター教育臨床分野が中心となり、愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室を運営してきた。ここでは、いじめ・不登校をはじめとする面接教育相談に応じてきており、毎週1回1時間の親子併行面談を基本として、カウンセリング、箱庭療法、プレーセラピー、等の技法を用いたインテンシブな心理療法を行ってきた。

同時に、この面接教育相談は学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生の臨床教育の場にもなっており、臨床心理士資格をもつ教員（センター教員並びにセンター研究員）が個人スーパービジョンをしながら、大学院生にも担当させてきた。また、ほぼ月3回の割合でケースカンファレンスを持ち、ケース検討を行う中で、大学院生の臨床教育の一環としてのグループ・スーパービジョンに充ててきた。

本年度（平成18年12月1日～19年11月30日）の面接教育相談の概要は以下の通りである。

| 事 項 | 対 象 | 人 数 | 時 間 | 担 当 者 等 |
|-------------------------|------------|---------------|---------|-----------------|
| ①外来面接相談 | 一般 | 294 | 2,973 | 生島博之、他学内臨床心理士教員 |
| ②対教師等相談 | 教師等 | 84 | 118 | |
| 内訳： | | | | |
| ①外来面接相談 | | | | |
| 受付ケース数 | 167 (294人) | 総面接回数 | 2,973回 | |
| 前年度からの引継ぎ | 74 (113人) | 総面接時間 | 2,973時間 | |
| 新規受付 | 93 (182人) | 面接回数範囲 | 1～50回 | |
| <問 題 別> | | | | |
| 不登校・不登校傾向 | 91 | 家庭内暴力 | 1 | |
| 対人関係の問題 | 34 | いじめられ | 7 | |
| 場面緘黙 | 11 | 育児不安 | 5 | |
| 遺尿・叱音・チック | 3 | 強迫傾向 | 2 | |
| 発達障害 | 26 | 虐待 | 1 | |
| 感情のコントロール | 9 | 対人恐怖症 | 3 | |
| 非行・怠学 | 3 | 摂食障害 | 1 | |
| 落ち着きがない・易怒性 | 5 | その他 | 77 | |
| 生活の乱れ | 6 | | | |
| 自分（の性格）について | 9 | | | |
| <面接形態別> | | | | |
| 単独面接（本人） | 35 | 父母子並行面接 | 12 | |
| 親（母）面接 | 32 | 母子並行面接 | 147 | |
| 父子並行面接 | 6 | その他（インタークを含む） | 62 | |
| <年齢区分別> | | | | |
| 幼 児 | 0 | 高校生、16～20歳 | 14 | |
| 小学生 | 42 | 成 人 | 25 | |
| 中学生 | 22 | 親による子の相談 | 191 | |
| <帰 結 別> | | | | |
| 終 結 | 33 | 中 断 | 14 | |
| 継続中 | 164 | 経過観察 | 11 | |
| その他 | 72 | | | |
| ②対教師等相談 | | | | |
| 受付ケース数 | 84 | 総面接回数 | 84回 | |
| 前年度からの引継ぎ | 3 | 総面接時間 | 118時間 | |
| 新規受付 | 81 | | | |
| <問 題 別> | | | <帰 結 別> | |
| 学級運営 | 77 (51人) | 終 結 | 81 | |
| スクールカウンセラーへのスーパービジョン | 19 (11人) | 継続中 | 3 | |
| 電話相談員へのスーパービジョン | 2 (5人) | | | |
| 適応指導教室指導員へのスーパービジョン | 13 (8人) | | | |
| 病院・クリニックのスタッフへのスーパービジョン | 2 (2人) | | | |
| その他 | 5 (7人) | | | |

6. 地域・教育委員会等と連携した活動

センターでは、本年度に地域・教育委員会等と連携して、次の活動を行った。

①愛知県教育委員会派遣教員内進留学生4名の臨床教育（大学院レベルの受け入れ）

- 荒木 武 徳 「初任教員のストレス及びその対処法とメンタルヘルスに関する研究」
— アンケート調査をもとにした考察 —
- 小崎 早 苗 「発達障害のある高校生の理解と支援に関する研究」
— アンケート調査結果及び事例をもとにした考察 —
- 丹 羽 誠 「初任者教員のメンタルヘルス」
— アンケート調査結果をもとにした考察 —
- 並木 詩 織 「発達障害のある高校生の理解と支援に関する研究」
— アンケート調査結果及び事例をもとにした考察 —

②県・各市教育局委員会との連携

- | | |
|--|-----------|
| 1) 豊田市「心の相談員」研修会（講師：生島博之、参加者170名） | 4月25日 |
| 2) 愛知県立西尾東高等学校 出張講義（川北 稔） | 5月22日 |
| 3) 伊勢市教育研究所 心の問題専門講座「いじめ問題への対応について」 （講師：中川美保子、参加者40名） | 6月7日 |
| 4) 三重県多気町立佐奈小学校 人権教育保護者講演会 （講師：中川美保子、参加者30名） | 6月9日 |
| 5) 岡崎市生徒指導部講演会（講師：生島博之、参加者80名） | 6月12日 |
| 6) 豊橋市生活家庭館 家庭教育講座 「子どもの生活について 臨床心理学的な視点から」 （講師：中川美保子、参加者50名） | 6月29日 |
| 7) 愛知県生涯学習推進センター 第2回家庭教育相談員研修会 「不登校の子どもたちへの対応を考える 臨床心理学の視点から」 （講師：中川美保子、参加者20名） | 7月11日 |
| 8) 名古屋市立桶狭間小学校 現職教育研修会その1 （講師：中川美保子、参加者40名） | 7月12日 |
| 9) 三重県総合教育センター 平成19年度教育相談専門研修講座 「中級講座1」（講師：中川美保子、参加者50名） | 7月31日 |
| 10) 三重県総合教育センター 平成19年度教育相談専門研修講座 「中級講座2」（講師：中川美保子、参加者50名） | 8月1日 |
| 11) 豊明市初任者研修（講師：生島博之、参加者14名） | 8月6日 |
| 12) 名古屋市立正色小学校・校内研修会（講師：生島博之、参加者15名） | 8月12日 |
| 13) 愛知県教育委員会 教員対象教育相談発展講座 （講師：菊島勝也、参加者50名） | 8月17日 |
| 14) 愛知県学校給食会 平成19年度愛知県栄養教諭免許法認定講習 （講師：中川美保子、参加者50名） | 8月20日～21日 |
| 15) 尾張旭市いじめ・不登校講演会（講師：生島博之、参加者120名） | 8月21日 |
| 16) 松阪市こども支援研究センター 平成19年度松阪市こども支援研究センター 研修講座21「子どもの育ちを考える」（講師：中川美保子、参加者50名） | 8月23日 |
| 17) 大阪国際会議場 第12回学校臨床心理士全国研修会（参加者：中川美保子） | 8月25日～26日 |
| 18) 三重県紀北教育会館 研修講座「カウンセリング」いじめについて考える 事例をもとにした、子どもの理解と手立て（講師：中川美保子、参加者60名） | 8月28日 |
| 19) 名古屋市立桶狭間小学校 現職教育研修会 その2 （講師：中川美保子、参加者40名） | 8月31日 |
| 20) 松阪市橋西市民センター 松阪市生徒指導連絡協議会研修会 不登校児童生徒への支援「今、不登校に求められている援助を考える」 （講師：中川美保子、参加者40名） | 9月18日 |
| 21) 西三北地区生徒指導研究会講師（講師：生島博之、参加者15名） | 9月25日 |
| 22) 愛知県中島地区 総合学習研究発表会 | 9月27日 |

(コメンテーター：菊島勝也、参加者30名)

- | | |
|---|--------|
| 23) 愛知県豊田南高校心理講義 (講師：菊島勝也、参加者60名) | 10月3日 |
| 24) 西三東地区教育相談研究会講師 (講師：生島博之、参加者15名) | 10月5日 |
| 25) 不登校シンポジウム (講師：中川美保子、参加者40名) | 10月14日 |
| 26) 松阪市子ども支援研究センター 第1回教育相談地域支援研修会 (講師：中川美保子、参加者20名) | 10月17日 |
| 27) 三重県多気町立佐奈小学校 教職員研修会及び事例検討会 (講師：中川美保子、参加者30名) | 10月19日 |
| 28) 愛知県総合教育センター・学校教育相談上級講座事例研究 (講師：生島博之、参加者18名) | 10月23日 |
| 29) 島根県立松江教育センター 平成19年度学校教育相談実践講座 (講師：中川美保子、参加者50名) | 10月26日 |
| 30) 三重県立四日市高校 平成19年度北勢地区高等学校生徒指導連絡協議会 「思春期・青年期の子どもたちの心を考える」(講師：中川美保子、参加者50名) | 11月13日 |
| 31) 津島市海部地区教職員組合青年部学習会 (講師：生島博之、参加者108名) | 11月16日 |
| 32) 清須市立古城小学校・校内研修会 (講師：生島博之、参加者24名) | 11月19日 |
| 33) 松阪市子ども支援研究センター 平成19年度(南部) 三重県教育支援センター指導員実践交流会 (講師：中川美保子、参加者20名) | 11月30日 |
| 34) 名古屋市立富士中学校・校内研修会 (講師：生島博之、参加者20名) | 12月20日 |
| 35) 名古屋市立長良中学校不登校・いじめ講演会 (講師：生島博之、参加者80名) | 1月25日 |
| 36) 豊田市「個性の強い子どもを地域で支える会」講演とシンポジウム (講師：生島博之、参加者130名) | 1月27日 |
| 37) 豊明市生涯学習講演会 (講師：生島博之、参加者453名) | 2月15日 |
- ③県・各市教育委員会のいじめ・不登校・問題行動対策委員会への協力(愛知県、同尾張教育事務所、名古屋市、豊田市、刈谷市、知立市、安城市ほか)
- ④「学校教育支援データベース」による愛知県内小・中学校を主とする校内研修会講師、保護者会講師、児童・生徒向けの講師等の紹介(18年1-12月の依頼件数40件)
- ⑤不登校児童・生徒への学生ボランティアの派遣(愛知県：ホームフレンド、岩倉市・江南市：メンタルフレンド、西尾市：チア・フレンド、豊田市青少年相談センター：ユースワーカーほか)
- ⑥SOBAメンバーによるフリースクール「クツナ池の原センター」(田原市)でのボランティア活動(8月)
- ⑦愛知県ひきこもり対策検討委員会(愛知県健康福祉部)への出席(川北 稔)
- ⑧中高生の育ちあい実行委員会(NPO法人 子育て子育てNPOスコップ)への出席(川北 稔)
- ⑨不登校と居場所を考えるシンポジウム(不登校学びネットワーク東海)コーディネーター(川北 稔)
- 10月14日
- ⑩ひきこもり相談者支援地域研修(西尾保健所)講師(川北 稔) 10月19日
- ⑪東海社会学会設立プレシンポジウム「若者のライフスタイルin名古屋ーその可能性と困難」コーディネーター(川北 稔) 10月20日
- ⑫愛知教育大学附属高等学校第27回高校教育シンポジウム講演会「不登校と学校外の学び」講師(川北 稔)
- 11月9日
- ⑬ひきこもり家族教室(衣浦東部保健所)講師(川北 稔) 2月7日

7. 教育実践総合センター刊行物

センターでは、本年度に次の刊行物を刊行した。

- 1) 「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」第11号 (平成20年2月)
- 2) 「SCOPE II」第11号 (平成20年3月)
- 3) 「学校教育支援データベースー2008年度ー」 (平成20年3月)
- 4) 「教育臨床事例研究」第18号 (平成19年10月)
- 5) 「教育臨床事例研究」第19号 (平成20年3月)
- 6) 「教育臨床学研究」(愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室紀要) 9号 (平成20年3月)
- 7) 「SOBA活動報告書」第5号 (平成20年3月)

8. その他の活動

その他、センターでは、本年度に次の活動を行った。

- 1) 「学校教育支援データベース」の作成とその活用（愛知県内小・中学校の教師、保護者、児童・生徒向けの支援の紹介）
- 2) 教科書データベースの管理

9. 事業日誌

| | |
|-------------|---|
| 4月7日 | 愛知学校カウンセリング研修会（以降毎月2回開催、対象：教員等） |
| 4月13日 | 愛知学校教育相談事例研究会（以降毎月1回開催、対象：教員等） |
| 4月27日 | 愛教大心理療法研究会（以降毎月1回開催、対象：OB臨床心理士ほか） |
| 4月28日 | ケースカンファレンス（以降毎月2回の頻度で開催） |
| 4月27日 | 第1回教育実践総合センター委員会 |
| 5月22日 | 第1回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 6月6日～7月2日 | 公開講座「聞いて学ぶ、動いて学ぶ、総合的学習の理論と実践」（全3回、対象：教員） |
| 6月19日 | 第2回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 6月20日 | 第1回発達支援基礎研究分野研究会 |
| 6月23日～3月15日 | 公開講座「学校教育臨床―事例研究B―」（全9回、対象：教員・保育士等） |
| 6月19日 | 第2回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 6月24日 | 公開講座「箱庭づくり体験」（対象：一般） |
| 6月30日～3月1日 | 公開講座「学校教育臨床―事例研究A―」（全9回、対象：教員・保育士等） |
| 7月24日 | 第3回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 8月 | フリースクール「クツナ池の原センター」でのボランティア活動 |
| 8月22日 | 第1回教育臨床分野研究会 |
| 8月9日～10日 | 公開講座「教育臨床セミナー」（対象：教員等） |
| 9月16日 | 第4回教科教育研究分野研究員会議・シンポジウム「わたしの授業分析・授業研究、その成果を後継世代にどのように伝達するのか」 |
| 10月 | 「教育臨床事例研究」第18号発行 |
| 11月7日 | センター紀要編集委員会 |
| 12月25日 | 第5回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 1月11日～12日 | 愛知学校教育相談事例研究会宿泊研修（井ヶ谷荘） |
| 1月16日 | 第2回発達支援基礎研究分野研究会 |
| 2月 | 第2回教育実践総合センター委員会 第6回教科教育研究分野研究員会議・研究会 |
| 2月6日 | 第3回発達支援基礎研究分野研究会 |
| 2月下旬 | 「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」第10号発行 |
| 3月 | 平成18年度教育実践総合センター運営協議会 「SCOPE II」〈教科教育研究分野ニュースレター〉No.10発行 「学校教育支援データベース―Ver.7―」発行 「教育臨床事例研究」第19号発行 「教育臨床学研究」（センター心理教育相談室紀要）第9号発行 「SOBA活動報告書」第5号発行 |

平成20年2月25日 印刷

平成20年2月29日 発行

愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第11号

発 行 者 愛知教育大学教育実践総合センター

刈谷市井ヶ谷町広沢1

電話〈0566〉25-2712（ダイヤルイン）

印 刷 所 シ ル バ ー 印 刷 有 限 会 社

刈谷市中山町1-15

電話〈0566〉21-133100